

## 松戸市まち・ひと・しごと創生懇談会（第5回）開催概要

日 時 平成 29 年 10 月 4 日（水） 13：30～15：00  
場 所 松戸市役所 新館 5 階 市民サロン  
出席者 影山貴大、小林邦博、高山健太郎、富永尚次、中臺雅樹  
（敬称略） （欠席：秋田典子、野中範郎、眞壁哲夫）  
事務局 松戸市総合政策部まつど創生課

### 1 「開会」

- 出席者からひとこと
- 事務局の紹介

### 2 「懇談（地方創生交付金事業の検証について）」

- 事務局から説明
  - ・ 地方創生に関する交付金制度の推移（資料 1）
  - ・ 平成 28 年度に実施した対象事業の概要及び実績等（資料 2）
  - ・ 「対象の各事業が『総合戦略の KPI 達成に有効であったか否か』についての評価」をすることが出席者に対して求められていること
- 検証結果（出席者の評価及び意見）

| 平成 28 年度実績調書 No. 1 （地方創生加速化交付金充当事業） |  |
|-------------------------------------|--|
| 事業名称                                | コンテンツ産業振興事業  |
| 評 価                                 | 総合戦略の KPI 達成に有効であった  |
| 付帯意見                                | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 松戸市のコンテンツ産業が広がっていることを認知している人もいるほどに、活発化しているようにみえる。</li><li>・ 立地を生かした産業として、これからの成長性があると思われるため、継続、尽力してほしい。</li><li>・ 流行り廃りが激しい世界だと思うが、定着するまでは、上手くいっているからといって気を緩めず、次の手を打ち続けることが重要である。</li><li>・ まちおこしの起爆剤の一つとして、非常に良い形で行われている。</li><li>・ 一過性のものではなく、クリエイターの育成もする事業形態であるため、新たな人々も集合して新たな企業が生まれるという形にもっていけるならば、連携、協力してこの事業を見守り、参加もしたい。</li></ul> |

|  |  |
|--|--|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 松戸のブランドイメージに直結する。全国的に見ても「コンテンツ産業＝まつど」というイメージに繋がる活動を進めた方が良い。</li> <li>・ 専門性や趣味性が高い側面を持つ分野における事業展開であるため、一定の経済効果を含めてその効果が保たれていくだろう。</li> <li>・ これから、どこまで展開、事業化し、誘致のメニューを増やせるかどうかに期待する。</li> <li>・ 「松戸にもあるプラネタリウムで、声優に星空投影時の解説をしてもらうだけでも若者は多数訪れる」といった話を多くの若者から聞いている。松戸が持っている既存のコンテンツを生かした事業を行うと、面白い展開になるだろう。</li> <li>・ 伊勢丹が本当に撤退してしまうならば、過去に市内にあった、ゲームやアミューズメント用景品等の販売等をする知名度の高い企業が運営していたアミューズメント施設を運営することができるような、コンテンツ系の事業者や施設が入れば面白い。</li> <li>・ 学校教育におけるプログラミング教育に、コンテンツ産業を連携させることができれば良い。</li> </ul> |
|--|--|

|                                     |   |
|-------------------------------------|---|
| 平成 28 年度実績調書 No. 2 (地方創生加速化交付金充当事業) |   |
| 事業名称                                | 誰もが創造的に働くためのフューチャーセンター事業  |
| 評 価                                 | 総合戦略の KPI 達成に有効であった   |
| 付帯意見                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フューチャーセンター自体が、日本国内で初めて設立されたということもあり、面白い。</li> <li>・ 多数開設されている会議が、どのように生きていくのか、KPI だけでは探りきれない部分もあるが、今後の展開が楽しみである。</li> <li>・ 様々なことを実施しているということは知っている。働き方改革でも、女性がターゲットになっている。「女性は、子育て世代の就業率が低く、子育て後に再就職しても非正規となってしまう」という課題が残っている。最近、女性は能力があり、正規雇用での仕事と子育てを兼ねても問題が無いため、女性の心に働きかける活動をしてほしい。</li> <li>・ 様々な企業を巻き込んで女性の活躍の場を創るよう、市とともに働きかけることも必要と考える。</li> <li>・ フューチャーセンターが入っている建物は、松戸のシンボルタワーであり、ランドマークのような存在でもあるため、活躍をしてほしい。</li> </ul> |

|  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い年齢層を対象としており、女性、若者やシニアという段階ごとの中での活躍の場を模索していく形であり、テーマも非常に多く、フューチャーセンターの報告冊子も非常に良い形でまとまっている。</li> <li>PRが若干不足、残念。一般市民に、余り知られていない。多数の会議等が開催されていることが、ホームページや広報を見ていても、わからなかった。民間の方たちを積極的に巻き込んでフューチャーセンターの存在を周知していくことができれば、市の政策へ住民の意見を反映させることができる人材も育成されるのではないか。</li> <li>創業に結びついていかなければならない。会議だけで終わってはならないため、目に見える形で成果を出していくことが、これからの課題である。</li> <li>フューチャーセンター自体が、どのような案件の受け皿であるのか、カウンターパートとしてどう機能するのか、という部分が見え辛い。創業であれば商工会議所など、市民活動であればサポートセンターなどと、既存のものもあるため、フューチャーセンターならではの、フューチャーセンターにはどのような人が行けばいいのか、ということが明確になれば、なお良い。</li> <li>期待を込めて評価している。</li> </ul> |
|--|---|

| 平成 28 年度実績調書 No. 3 (地方創生推進交付金充当事業) |  |
|------------------------------------|--|
| 事業名称                               | 松戸市介護人材育成のための事業  |
| 評価                                 | 総合戦略の KPI 達成に有効であった  |
| 付帯意見                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>KPIにある「正規雇用された人数」は増えているため、やらないよりは、やった方が良い。</li> <li>実際に事業費として約1千万円を要しているところで、採用人数が14人で正規雇用が9人ということから、これが果たして事業費に対する十分な成果と言えるか、という見方もある。しかし、「やらないよりは、やった方が良い」という部分もある。事業費に見合った効果を生み出すことができる事業にしていければ良い。</li> <li>やらないより、というよりは、絶対にやらなければならないことではないか。</li> <li>働き方改革でも、要介護者を抱える人がターゲットになっている。将来不安のために消費行動をせず貯金をし、デフレスパイラルが解消されない1つの原因となっているため、「松戸市に住めば将来はそんなに問題はない」という、将来の見通しを明るくする状況があれば、都内などからの移住者も大分増える</li> </ul> |

|  |  |
|--|--|
|  | <p>のではないか。東京都との社会移動を見ても、そのような理由で松戸を選んでもらえるようになってきているのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後、間違いなく介護人材は必要となってくるため、このような人材がより働きやすくなる施策が必要になる。期待を込めて評価する。</li> <li>・ 介護人材育成事業参加者の介護職員初任者研修の修了率が、78.5%で若干低いのではないかと気になった。これに関しては、様々な要因が重なっていると思うが、原因を追究、分析して対策をした方が良い。</li> <li>・ 保育人材の自治体間の取り合いのように、将来は介護人材でも取り合いになるため、今のうちに手を打っておくことは必要。事業は継続してもらいたい。</li> <li>・ 介護業界自体の人手不足が慢性的と聞いている。少しずつでも実績を重ね、補助金を利用してこのような事業を実施し、介護人材の育成をしていけば良い。</li> <li>・ 要介護3以上の重い方々への対応は、やはり介護専門の従事者でなければ無理がある。認定も含めてしっかり見ていかなければならない。</li> <li>・ 松戸市では、NPOが盛んに動いているため、うまく連携できれば要介護1・2の方々への対応は有償ボランティアに担ってもらい、要介護3以上の重要な部分は人材育成した方で、といった棲み分けができれば、良い展開ができるのではないか。</li> </ul> |
|--|--|

|                      |  |
|----------------------|--|
| <p>全体的な<br/>付帯意見</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相当程度効果があった。</li> <li>・ 順調に動いているように見える。</li> <li>・ 欠点がわからないほどに頼もしく思う。</li> <li>・ 様々なことを実施している、ということは知っている。</li> <li>・ 市民の立場としても、市と連携して一緒に盛り上げていきたい。</li> <li>・ これからどうなっていくかが、楽しみ。</li> <li>・ 数値がいい方向に向かっていて、良い。</li> <li>・ 他の動向を見つつ一歩先を見ていかねばならない部分もあるため、様々な情報を掴んでいければ良い。</li> <li>・ 様々なアイデアで街中を盛り上げていき、最終的に「松戸市はいいところ」と言ってもらえるようになれば良い。</li> <li>・ 様々な意味で、松戸市はポテンシャルが高いが、何もせずにいると近隣市町村に差をつけられる。やはり、松戸市ならではの特徴を出してほしい。また、協力もしたい。</li> <li>・ 実施すべきことは様々だと思うが、優先順位をつけて実施し</li> </ul> |
|----------------------|--|

|  |  |
|--|--|
|  | <p>てほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行政では様々な制約から実施することができない部分を補完できる部分は、積極的に協力したい。</li> <li>・ ほんの少しのアイデアから、良い事業ができることもある。</li> <li>・ 面白い部分、かつ、非常に大切な部分に目をつけて事業が進められている。</li> <li>・ K P I の数値からも、相応に効果があったとみることができる。</li> </ul> |
|--|--|

### 3 「事務局からの報告」

#### (1) 次回懇談会（平成 30 年 2 月中の開催を予定）にて予定している松戸市総合戦略等の検証について

##### ○ 事務局から説明

- ・ 現状での松戸市の人口動向（資料 3）
- ・ 「総合戦略における数値目標・重要業績評価指標の現状値」の収集作業の途中経過（資料 4）

#### (2) その他連絡事項

##### ○ 事務局から説明

- ・ 懇談会での意見等は、庁内関係部署にフィードバックする。
- ・ 懇談会の資料及び懇談概要を松戸市のホームページに掲載する。

### 4 「閉会」

以上